

世界の地域から



中国・内モンゴル自治区 通遼市

中国の北方に位置し、東西に長く伸びる内モンゴル自治区は、北はモンゴル、ロシア連邦と国境を接しています。現在は、漢民族が人口の約 80% を占め、モンゴル族は約 15%、その他満州族、回族などの少数民族が主に農業・畜産業、一部林業や鉄鋼業を営みながら暮らしています。行政区はモンゴル族の習慣を尊重して、盟（地区にあたる）、旗（県にあたる）、鎮といった区分が使われています。また、かつて草原だったところが、ここ数十年の過開墾・過放牧により急速に砂漠化し、日本の NGO 団体や JICA、地方自治体などが植林活動を支援しています。

通遼市は内モンゴル自治区南東部に位置する人口 309 万人の都市で、緑豊かな自然保護区やホルチン砂漠など多様な景観を有しています。今回は国際環境 NGO・FoE Japan の砂漠緑化ツアーの中で訪れた通遼市のまちや村の風景と植林活動の様子をご紹介します。（関連記事 44 ページ）



ダチンノール村にて 植林活動

ダチンノール村は庫倫旗ウルスン鎮にある人口約150人の村。砂漠化の進行とともに約半数の世帯が庫倫旗内の別の場所へ移住しましたが、残った住民は放牧の制限、緑化活動に取り組む、半農半牧の暮らしを続けています。FoE Japanは住民主体の緑化活動を支援しています。この一帯のホルチン砂漠は日本に一番近い砂漠化進行地域です

—ニレ、サジー、ヤマアズ、蒙古クヌギ、モミジのポット苗を植林—



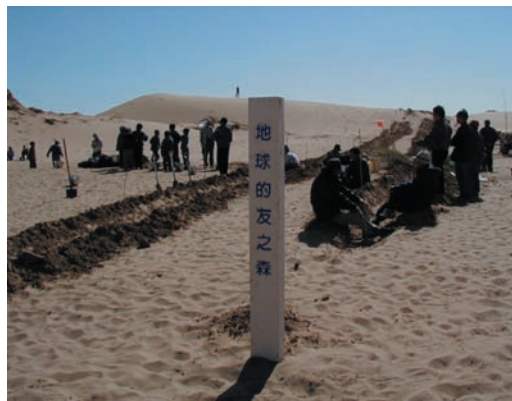
地元小学生と緑化活動 子どもたちは総合学習の一環として取り組んでいます



大砂丘地帯 タービンチャガン



ダチンノール村



植林活動開始。(2001年4月)

大青溝国立自然保護区



夕焼け



上と同じ場所(2007年8月)に苗木が育ち、緑が復活。
回復後は畑や牧草地として活用できます



カンチカのまち

科尔沁左翼后旗の旗政府所在地、カンチカ鎮。看板は中国語とモンゴル語併記が多い



リャンサップ村

科尔沁左翼后旗にある人口約330人の村。住民は半農半牧の生活をしています

住民と一緒に植林活動をした後、村長の家で、羊一頭を絞めて作った料理とお酒でもてなしていただきました



写真提供：支援協力部国際協力課 宮沢 明子

(FoE Japan 中国砂漠緑化プロジェクトスタッフ・17次隊協力)